

HOSH~hold out hope~

<http://toyono-jinjikyoo.com/>

3

平成 30 年度 (2018 年度)

5 年経験者研修 児童生徒理解研修 (中堅教諭等資質向上研修)

第 3 回の 5 年経験者研修は、大阪教育大学の水野治久先生に演習を交えご講義いただきました。タイトルは、“「チーム学校時代」の児童生徒理解・援助”でした。

学校を取り巻く課題が複雑化・多様化している中で、学校内部においてチーム体制を構築し機能させていくことが求められています。講義では、チームにより子どもを援助することを柱に、目の前の子どもたちや保護者の言動をどのように捉え、背景にある要因について具体例とともに話してくださいました。

水野先生には、初任者研においてもご講義いただきました。初任者の時には、見えなかったことが 5 年目を迎え見えるようになり、水野先生のお話がこれまでの経験と結びつき、実感を伴って理解を深める学び多き研修となりました。

～ 振り返りシートより～

今まさに職場で起こっている問題が事例で紹介されて、より明確に課題が見えたように思います。経験豊かな先生方のケース会議での流れるような動きも、すぐできる短期目標、長期目標、役割分担の中身が少し分かりました。互いが気軽にしんどさを共有できる職場の雰囲気、意義のあるケース会議の一助となれるよう今日の学びを活かしていきたいと思います。

クラスのことで悩んでいる先生が今日の研修を聞いていたら、少しは心が楽になるのではと思いました。チームで子ども(や子どもの背景)に向き合える現場が増えるといいと思いました。「子どもの危機管理のためには、深刻に見積もる」という言葉が心に刺さりました。まさにその通りだと思います。肝に銘じて教師生活を過ごしていきたいです。

子どもたちの行動には、必ず何か理由や背景があり、そのことをよく観察し理解して接していくことが大切だと学びました。グループ活動などもやればいいのかではなく、今の子どもたちの状態をよく見ながら、アプローチしないと逆効果をもたらすこともあるので、目先のテクニックや手法を真似するのではなく、なぜそうするのかよく考えなければならないと感じました。また、小さなことでもすぐにできることをやり、そこから新たに見えてくるのが大切だと思いました。チームや学校として動く時に、積極的に案を出してチームに変化をもたらすことが自分のやっていかなければならないことだと思いました。

～ 事例検討～

後半には、講義を踏まえグループで事例検討に取り組みました。チームでアセスメントし、プランニングすることで、より多面的・多角的な意見が交わされ、討議を深めることができました。

自分のクラスの子どもと重ねてみて、どうすれば少しでも状況がよくなるのか意見を出し合いました。学校(職場)でもそのような話し合いをできる限りやっていきたいです。一人で抱え込まず、職場の人たちと協力することでこの仕事をよりやりがいあるものにできるのではと考えました。

どちらの事例でも、チームで話し合うことで、自分になかった視点が出てくるので、とても大事なことだと感じました。

事例検討は、とても身になりました。一つの事例をいろいろな側面から考えられました。自分が考えつかないような面から支えていく方法を知り、これからに活かそうです。「サッカーを一緒にする」のような、少しのことでも信頼関係を少しずつ築くことができるので、自分にできることを模索していきたいです。

水野先生は、講義の中で何度も“ミドルリーダー”という言葉が伝えておられました。10 年目までの期間は、とても重要な時期になります。水野先生の言葉を受けて、5 年後の自分の姿を見据えて、どうキャリアを積み上げていくのかを考え、振り返りシートにこれからの展望をまとめている先生が多くいました。

豊能地区で実施している法定研修は、豊能地区の教育を担う先生方への願いや期待を形にしたものです。次の法定研修は、10 年経験者研修となります。先生方の益々の活躍をお祈りし、次回 10 年研でお会いできることを楽しみにしています。